

使われなくなった
のこぎり屋根工場
今後を語る座談会

第六回

報告書

のこぎり座

座談会内容

『のこぎりマッピング』

日時、平成二十九年四月二十三日

午後六時～八時

場所、のこぎり二

第六回のコ座『のこぎりマッピング』

今回は北イングランドの工場遺産探索地図や、桐生のこぎり屋根観光地図を参考にしながら、一宮のこぎり屋根構想図を作ります。この図には現状だけでなく、将来の構想を盛り込み、一宮市にあるのこぎり屋根の意義と今後の展望を表現します。イングランドノースライトギャラリー展示への第一歩として、また、一宮市のこぎり屋根の指針となるものを目指します。

参加者の方には当日お気に入りの工場を発表していただき、地図に落とし込みながら、話し合いを進めたいと思います。よろしくお願い致します。

日時：平成29年4月23日（日）18:00～21:00

会場：のこぎり二（一宮市竈屋4-11-3）

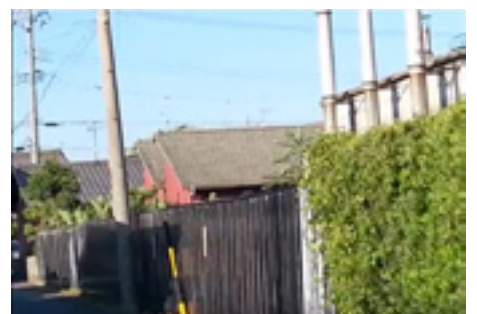
今回は約10名の方に参加頂きました。それぞれの方にリサーチして頂いた工場を発表してもらい、約6600分の1の一宮市地図に場所を落とし込みました。



松原さん： 玉ノ井は電車から降りた瞬間「宝の山」



山本さん： 浅井の古い街並や田畑に映える美しい工場



関野さん： 起から続く木曾川堤防沿いの趣きある工場群



加美さん： 千秋町のモルタル壁工場と変則のこぎり屋根



野田さん： 籠屋の新しい学び舎「野田工場」



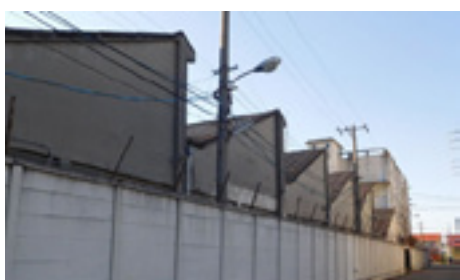
森さん： 日光川に囲まれたカラフル工場群（萩原町花井方周辺）



藤森さん： 錆びたトタンは「尾州ピンク」



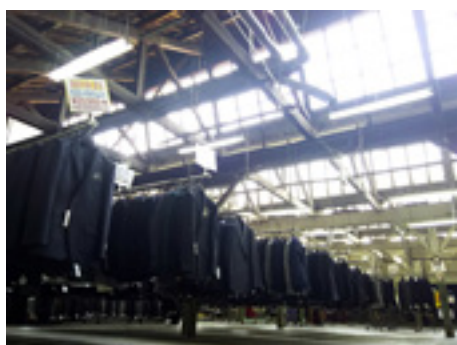
池俣さん： 繋がる歴史



平松： 三条、五城、開明、籠屋、馬引の工場たち



青木さん： 木鉄毛織「スーツのアウトレット工場」





マッピングを終えて改めて認識できたことは、玉ノ井駅周辺の工場の充実でした。すでに写真撮影のスポットにもなっているということもあり、風景として面白い工場が沢山あります。葛利毛織さんという元気な工場が同じ地域にあるということ、また駅からも近くアクセスが容易であることも踏まえ、まず押さえなければならない重要ポイントとなりました。

次に、起から北へ木曽川堤防沿いに上がっていく道周辺です。この地域も古い街並が残っており、工場の壁も黒い木板のものが多く見られます。起にある湊屋さんの周辺にも趣きのある工場が残っています。内部も整理されており、条件が揃えばすぐにでも使えそうな工場でした。この地域も重要なポイントです。

地図でもわかるように、一宮駅から玉ノ井までは電車、一宮駅から起まではバスで移動ができます。(紫線) 玉ノ井から起まで、木曽川沿いに散策しながらのこぎりを巡っていきけるような、気持ちの良い路ができると、起街道-美濃路-名鉄尾西線と、点ではなく線で繋がるのではないかという話にもなりました。

また浅井町周辺のことが何度も話題にあがりました。風景の綺麗さはもちろん、最近では若い人が浅井に店を出し始め、少しずつスポットになっているそうです。若者の行動範囲は起周辺の歴史のある地域より、浅井周辺の方にあるようです。一宮市ウォーキングマップを持参してくださった参加者の石丸さんは「一宮で印象に残る風景は玉ノ井と浅井」とおっしゃっていました。

今回のマッピングは皆さんでリサーチした工場をどう残して活用していくか議論するためのものです。その第一段階として、工場の持ち主の心をどうやって掴むのかが重要になってきます。いきなり訪ねて利用したいとお願いすることは難しいでしょう。持ち主とある程度の信頼関係を築きながら、ゆっくりと心の中にお邪魔しなければならないと思います。

そのアプローチとして現在思案しているのは、工場の絵を描かせてもらうという活動です。これは一宮出身の画家・梅津諭さんの提案で、工場を絵として集積することで、写真や情報データとは違う価値を見い出していこうというものです。持ち主との対話のきっかけとしてはもちろん、将来色々な方向へ可能性が広がっていく活動だと思い、共感しました。

今後の動きとしては、今回重要ポイントにあがった玉ノ井、起、浅井地区のフィールドワークを兼ねて、皆さんで工場の持ち主と実際にお話しをしにいきたいと考えています。

平松毛織株式会社 取締役
平松久典

